

宮崎神宮：徴古館

宮崎神宮徴古館（歴史がおのずから現れるホール）は、歴史を通じて神社に贈られた美術品、資料、その他の貴重品を保管するために、1911年に建設されました。この2階建ての建物は、西洋の影響と日本の伝統建築を組み合わせた折衷的スタイルを持ち、最も特徴的なものの1つはなまこ壁です。黒いタイルの上に厚い漆喰の継ぎ目で作られた白縁のひし形パターンは、もともとは蔵の耐火性の土壁を水から保護するために考え出されたものですが、明治時代（1868～1912）には、レンガとモルタルの洋風の外観を実現するために使用されました。有形文化財に登録されている徴古館は、今も保管庫として、また時折展示のために使用されていますが、現在は一般公開されていません。コレクションの大部分は、近くの宮崎県総合博物館など他の場所に移されました。